

とちぎ夢大地応援団活動報告（平成30年5月19日実施）

佐野市 多田地区「再生農地の刈り払い」

佐野市多田地区の柴田保全会（毛利昭一郎会長）のとちぎ夢大地応援団活動が5月19日、応援団員23名、地元柴田保全会員6名の合計29名が参加して、再生農地の草刈りを行いました。

旧田沼町の国道293号線沿いにある同地区は、6年前から春秋の年2回、柴田保全会員と応援団員が力を合わせて地区内の耕作放棄地の解消に取り組み始め、灌木や雑草が生い茂る約5haの放棄地の農地への再生を図ってきました。

真夏を思わせる天気となった同日、ボランティア団体栃木ナルクの会員8名を含む夢大地応援団員と地元の人たちとで、背丈以上に伸びたアシ原など約2haの面積の草刈りに大汗を流しました。応援団員の中には、さいたま市から電車で会場入りした活動初参加の60代の男性会員もあり、他のベテラン参加者たちと交流を深めていました。

昼食後の交流会では、今後の夢大地活動の方向などについて意見交換をしたあと、毛利会長から「保全会員だけでは、なかなか管理に手が回らない。皆さんの数の力による支援は本当に有難い。今年こそは再生農地にクローバーの種を蒔いたり花ショウブを植えたり、活用を図りたい」との話がありました。



開会式であいさつする柴田保全会・毛利会長（中央で帽子を手にする人）



今回の草刈りの現場は、約5haの再生農地の内の約2haで一面アシが生い茂っていました



背丈以上に伸びたアシと格闘する応援団員



2時間半足らずで御覧のようにきれいに刈り払われました



作業を終え、日陰でクールダウンする参加者



昼食後の交流会での意見交換の様子